NASP NATIONAL ASSOCIATION OF School Psychologists | School Safety and Crisis

暴力について子どもと話す：家庭と教育者のためのヒント

学校でのエスカレートした集団での暴力行為は、危険を感じたり、友人や愛する人が危機に瀕しているのではないかと心配したりする子どもや若者を混乱させ、怖がらせることがあります。彼らは、どのように反応すべきかについての情報や指導を大人に求めるでしょう。大人自身も、特に銃暴力など、米国における集団暴力という高まりつつある現実に苦しんでいるかもしれません。しかし、保護者や学校職員には、日常と安全の感覚を確立し、彼らの持つ本来の立ち直る力（レジリエンス）を強化し、彼らの恐れについて話し合うことで、子どもや若者が安心感を感じられるように手助けする責任があります。

1. 子どもたちに安全であることを再保証する。あなたや他の大人が彼らを守るためにいることを伝えましょう。 ニュースが学校の安全ではないと思ってしまうことがあるかもしれませんが、学校は一般的に非常に安全であることを強調してください。実際、研究から、学校は子どもたちにとって最も安全な場所の一つであり、個々の子どもが学校で暴力を経験する可能性は非常に低いことが明らかになっています。

2. 子どもたちの感情を認める（傾聴する）もし悲劇が起こったとき、どのような感情を抱いても大丈夫だと説明しましょう。子どもたちが自分の感情について話せるようにし、その感情に適切な見通しを与え、適切に表現できるように手助けをしてください。その子どもにとって適切であれば、この国における集団暴力（マス・バイオレンス）の蔓延が不安で容認できないことであり、多くの大人がこの問題に対処するために取り組んでいることを認め伝えましょう。

3. 話す時間を作る どのくらいの情報を提供するかについては、子どもたちの質問を指針にしてください。辛抱強く接しましょう。子どもや若者は、自分の感情についてすぐには話さないことがあります。あなたが皿洗いや庭仕事をしている時に、、周りをうろつくなど、話したいと思っているかもしれない兆候に注意を払ってください。中には、書くこと、音楽を演奏すること、またはアートのプロジェクトを行うことをはけ口として好む子どももいます。幼い子どもは、自分の感情を認識し表現するために、（絵を描くこと、絵本を見ること、想像上の遊びなど）具体的な活動が必要な場合があります。

4. 説明は発達段階に応じて適切に行う

    a. 小学校低学年の児童には、簡潔で単純な情報が必要です。これには、学校や家が安全であること、そして大人が彼らを守るためにいるという安心感を与える言葉を添えてバランス

© 2023 National Association of School Psychologists | 4340 East West Hwy, Bethesda, MD 20814 | www.nasponline.org | 301-657-0270

を取るべきです。外側のドアが施錠されていること、校庭での見守り活動、登校時間中に訓練されている緊急避難訓練など、具体的な学校の安全対策の例を挙げましょう

b. 小学校高学年および中学校低学年の生徒は、本当に安全なのか、学校でどのような対策が取られているのかについて、より積極的に質問するでしょう。彼らは現実と空想を区別するための手助けが必要かもしれません。安全な学校を提供するための学校および地域指導者の取り組みについて話し合いましょう。

c. 中学校高学年および高校生の生徒は、学校や社会における暴力の原因について、強く、さまざまな意見を持つでしょう。彼らは、学校をより安全にする方法や、社会の悲劇を防ぐ方法について、具体的な提案を共有するでしょう。生徒の安全を守る責任は大人にあることを強調しつつ、生徒たちも学校の安全ガイドラインに従うこと（例：部外者に建物の入室を許可しない、キャンパス内で見知らぬ人を見かけたら報告する、生徒や地域住民による学校の安全への脅威を報告する）、個人的な安全上の懸念を学校管理者に伝えること、そして心の健康のニーズに対するサポートを利用することによって、安全な学校を維持する役割を果たすことができると伝えましょう。

5. 安全手順を確認する これには、学校、地域社会、および家庭での手順と安全対策を含めるべきです。子どもたちが脅威を感じたり危険にさらされていると感じたときに頼れる、学校内および地域社会の大人のうち少なくとも一人を特定するのを手伝いましょう。

6. 子どもたちの情緒的な状態を観察する 心配事を言葉で表現しない子どももいます。行動、食欲、睡眠パターンの変化も、子どもの不安や不快感のレベルを示すことがあります。ほとんどの子どもでは、これらの症状は安心感と時間の経過とともに軽くなります。しかし、より激しい反応のリスクがある子どももいます。過去にトラウマ的経験や個人的な喪失を経験した子ども、うつ病やその他の精神疾患を患っている子ども、または特別な支援が必要な子どもは、他の子どもよりも深刻な反応を示すリスクが高くなる可能性があります。少しでも心配な場合は、精神衛生の専門家の助けを求めてください。

7. テレビやソーシャルメディアによるこれらの出来事への注意を制限する テレビの視聴を制限し、共用エリアでテレビがついている場合は注意を払いましょう。発達段階に不適切な情報は、特に幼い子どもに不安や混乱を引き起こす可能性があります。大人も、子ども、さらには十代の若者の前で交わす会話の内容に留意し、誤解を招く可能性のある復讐心、憎悪、怒りに満ちたコメントへの彼らの接触を制限する必要があります。

8. 誤った情報を訂正する 暴力事件の詳細について推測したり、噂を広めたりすることは、不必要に不安と恐怖をエスカレートさせる可能性があります。法執行機関やその他の指定された当局が最も正確な情報を持っていることを強調しましょう。精神疾患を持つ人々が暴力に傾倒しやすいという誤解に対処してください。これは真実ではありません。実際、精神疾患を持つ人々は、加害者になるよりも暴力の被害者になる可能性が高いのです。FBIを含む専門家は、誰かを暴力に向かわせるには、しばしば連鎖する複数の要因の組み合わせが必要であることを強調しています。

9. 通常のルーティンを維持する 規則正しいスケジュールを守ることは、安心感を与え、身体の健康を促進します。子どもたちが十分な睡眠、規則的な食事、運動を確保できるようにしま

© 2023 National Association of School Psychologists │ 4340 East West Hwy, Bethesda, MD 20814 | www.nasponline.org │ 301-657-0270

しょう。学校の課題や課外活動を続けるように励ましますが、圧倒されているように見える場合は無理強いしないでください。健康的な社会的なつながりを支援しましょう。

10. 子どもや若者が前向きな変化をもたらすために取れる手段について話し合う 小さな方法であっても行動を起こす能力は、不安を減らし、立ち直る力（レジリエンス）を促進するのに役立ちます。暴力防止に関連すること、あるいは単に家族、学校、またはより広いコミュニティに前向きな貢献をするために、子どもや若者が支援できる組織や、できることを見つけるのを手伝いましょう。

子どもと話す際に強調すべきポイント

- 学校は安全な場所です。 学校の職員は、ご家族や地域の安全を提供する人々（地元の警察、消防署、救急隊員、病院など）と協力して、皆さんの安全を守っているということ。
- 私たちの校舎は安全です。なぜなら...（具体的な学校の手順を挙げる）。
- 皆さんの安全を守る責任は大人にありますが、私たち全員が学校の安全に役割を果たすことができます。よく観察し、不快に感じたり、緊張したり、怖くなったりしたことを見聞きしたら、必ず大人に知らせなければならない、ということ。
- 「報告すること」 と、密告、告げ口、うわさ話とは違います。信頼できる大人に知っていることや聞いたことを伝えることで、直接的または匿名で、危害を防ぐための重要な情報を提供できるということ。
- 悪いことが絶対に起こらないという絶対的な保証はありませんが、何かが起こる可能性と、それがあなた（または私たちの学校コミュニティ）に直接影響する確率の違いを理解することが重要です。いかなる集団暴力も恐ろしく容認できないものですが、学校でそのような暴力を経験する統計的な可能性は低いのです。2020～2021学年度のデータに基づくと、ある特定の学校が死傷者を伴う銃乱射事件を経験する可能性は、約1,400年に一度です。参考までに、1,400年前は西暦623年です。さらに、学校で負傷または死亡する確率は約45万分の1（0.00022%）であり、あらゆる種類の若者の殺人事件のうち、学校で発生するのは3%未満だということ。
- 無意味な暴力は、誰にとっても理解するのが難しいことです。私たちが好きなことをし、通常のルーティンを続け、友人や家族と一緒にいることは、気分を良くし、事件について心配しすぎるのを防ぐのに役立つということ。
- 時には、他人を傷つけたり悪いことをする人がいます。彼らは怒りを抑えられなかったり、薬物やアルコールの影響下にあり、精神的な病気に苦しんでいたりするのかもしれません。大人たち（保護者、先生、警察官、医師、信仰の指導者）は、そのような人々を助け、彼らが他の人を傷つけないようにするために懸命に働いています。私たち全員が、ひどく動揺したり怒ったりしたときに助けを求める方法を知り、薬物やアルコールに依存しないことが重要だということ。
- 適切な訓練を受け、大人の監督下にある場合を除き、銃やその他の武器に近づかないこと。 誰かが銃を持っていることを知っている場合は、必ず大人に知らせてください。銃へのアクセスは、致命的な暴力の主要な危険因子ということ。
- 暴力は、個人的な問題の解決策には決してなりません。 生徒は、学校での暴力防止プログラムに参加したり、紛争解決のスキルを学んだり、自分自身または友人が怒りや抑うつ、その他の制御できない感情に苦しんでいる場合に大人に助けを求めたりすることで、前向きな解決策の一部になる得るということ。

© 2023 National Association of School Psychologists │ 4340 East West Hwy, Bethesda, MD 20814 | www.nasponline.org │ 301-657-0270

NASP（全米学校心理士協会）には、学校の安全、暴力防止、子どものトラウマ反応、危機対応に関する保護者および教育者向けの追加情報が、ウェブサイト www.nasponline.org にあります。

この文書の引用：National Association of School Psychologists. (2023). Talking to children about violence [Handout]. （全米学校心理士協会. (2023). 子どもたちと暴力について話す [ハンドアウト]。）

© 2023 National Association of School Psychologists │ 4340 East West Hwy, Bethesda, MD 20814 | www.nasponline.org │ 301-657-0270